

原典：『太平惠民和劑局方』(宋)卷五、治個冷附消渴門

「心中蓄積、時に常に煩躁し、因って思慮勞力憂愁抑鬱し、是れ、小便白濁、或は沙漠有るを致し、夜夢走泄、遺瀝洪痛、便赤きこと血の如く、或は酒色過度に因って上盛下虚し、心火炎上し、肺金は尅を受け、口舌乾燥、漸やく消渴を成し、睡臥安からず、四肢倦怠、男子の五淋、婦人の帯下赤白、及び病後の氣収斂せず、陽外に浮かび、五心煩熱するを治す。薬性温平にして冷ならず、熱ならず、常に服して心を清し、神を養い、精を秘し、虚を補い、腸胃を滋潤し、気血を調順す」

処方：蓮肉 4.0, 麦門冬 4.0, 茯苓 4.0, 人参 3.0, 車前子 3.0, 黄芩 3.0, 黄耆 2.0, 地骨皮 2.0, 甘草 1.5  
(北里東医研処方集)

概説Ⅰ： 本方は心と腎の熱を冷まし、かつ脾肺の虚を補うのが目的である。思慮憂愁に過ぎ、すなわち精神過勞によって脾と肺を損じ、酒色過度の不摂生により脾と腎をやぶり虚熱を生じた場合によい。主として慢性泌尿器疾患で体力の衰えた場合に應用される。目標としては、過勞するとき尿の混濁を来すという慢性淋疾や腎膀胱炎、また排尿時力がなく後に残る気味ありと訴えるものなどによく奏効する。白淫の症と名づける婦人の帯下、あたかも米のとぎ汁の様なものを下す者、糖尿病で虚羸し油のような尿のであるもの、腎臓結核で尿が混濁し虚熱のあるもの、遺精、慢性腎盂炎、性的神経衰弱、虚熱による口内炎などにも應用される。

麦門冬、蓮肉は心熱を清めかつこれを補い、地骨皮、車前子は腎熱を涼し、よく利尿の効がある。人参、茯苓、甘草は脾胃を補い、消化の機能を亢め、一方人参、黄耆、黄芩、地骨皮、麦門冬と組んで腎水を生じ、利尿をよくし、肺熱を清涼させる。  
(漢方診療医典)

概説Ⅱ： この方は四君子湯をもとにして組み立てた方剤であるから、平素より胃腸が弱く、地黄剤を用いると、食欲がなくなったり、大便がゆるんだりして、とかく胃腸にさわるものに用いる。その目標は尿の淋瀝で、まだ尿がでそうでいて出ないで氣持のわるいものに用いてよく効く。また尿がちよくちよくもれるものにも用いる。八味丸を用いる証によく似ていて、胃腸虚弱で、八味丸を用いることのできないものを目標にして用いるとよい。この方の応ずる患者は、冷え症で、神経質の傾向がある。  
(症候による漢方治療の実際)

症状治療：胃腸の弱いタイプの無菌性膀胱炎で尿意頻数、尿意切迫の症状のあるもの。

(漢方診療レッスン)

用いるべき病態：尿路不定愁訴の第1選択剤。無菌性膀胱炎に用いる。よくお茶を飲む傾向がある。神経質で不眠傾向がある。  
(レッスン)

使用目標：①うつ傾向、②泌尿器生殖器系症状(膀胱炎症状など)、③胃腸虚弱(胃下垂・胃アトニー)、以上3つを目標とする。

(附記：慢性泌尿器科疾患で体力の衰えたものに用いられる。疲れると尿混濁を来す慢性膀胱炎、排尿時に力がなく、後に残る気味のものによい。心因性頻尿にも用いられる。  
(臨床医のための漢方)

長期使用：上記症状を頻回に繰り返すもの。不安、不眠などの精神症状と尿意頻数、尿混濁、遺精、遺尿、残尿感のあるもの。陰萎や愁訴の多い糖尿病にも好んで使用される。これらは八味丸の適応と重なる部分も多い。臨床の実際では八味丸の適応に見えて、胃腸虚弱、冷え症の傾向の強い場合は本方のよいことが多く、「八味丸の適応で地黄の使えないもの」と覚えるとよい。（レッスン）

関連処方：膀胱炎の急迫症状には猪苓湯の方がよく用いられる。炎症のはっきりあるものは五淋散、便秘を伴えば桃核承気湯。

（附記：尿路の炎症；○五淋散：慢性炎症。無菌性膀胱炎には清心蓮子飲、細菌性膀胱炎には五淋散を第一選択剤とする。○桃核承気湯・大黄牡丹皮湯：急性炎症でじっとしてられないもの。○竜胆瀉肝湯：頑健型の尿路感染症に用いる。）（レッスン）

清心蓮子飲関連事項

- 「臨床の眼」：慢性前立腺様症候群と診断された32歳の男性で成功後に前立腺からペニスにかけて疼き、泌尿器科の前立腺マッサージで症状が悪化したと診察のたびに訴えた患者に清心蓮子飲がよかった経験がある。同様の訴えで半夏厚朴湯のよかった例がある。
- 糖尿病：一般には胃腸の丈夫なものは八味地黄丸、八味地黄丸で下痢するものは清心蓮子飲を第1選択剤にする。実験レベルで血糖降下作用のある生薬は知られている\*1が、臨床の実際では随伴症状によって処方が選択される。古典の記載をふまえると、一般に以下の3つの病型\*2に分かれる。この3型の分類はほぼこの順序で糖尿病の進展をみているとよい。

\* 1 血糖降下の期待される生薬

地黄、蒼朮、知母、山茱萸、白朮、牡丹皮、茯苓、麦門冬、麻子仁、人參、桔梗

\* 2 糖尿病の3つの病型

病型	主要兆候	処方
上消	多飲（口渇引飲）、舌：紅、体力未だ衰えず	白虎加人參湯 <sup>a)</sup>
中消	多食、るいそう、便秘（大便硬）	調胃承気湯 <sup>b)</sup>
下消	多尿（小便膏濁）、体力疲弊、種々の合併症の出現	八味地黄丸 <sup>c)</sup>

- a) 竹葉石膏湯：虚弱体質の者はこの時期、竹葉石膏湯、麦門冬湯にする。
- b) 必ずしも調胃承気湯でなくてよい。便秘傾向のある者はこの時期大黄剤を用いるという意味。大柴胡湯や防風通聖散を考慮する。
- c) るいそうがあり情緒不安定で胃腸の弱い者はこの時期、清心蓮子飲。また新陳代謝の衰えがあり冷えが強ければ真武湯などを考慮する。（以上レッスン）

- 老人性膀胱炎・帯下：局所の不快のために眠れぬもの。薏苡仁を加えるとさらによい。  
(レッスン)
- 帯下：胃腸虚弱で他の処方服用できない時に用いる。帯下はしばしば米のとぎ汁様である。体格・体質は弱く疲労しやすいものが多い。膀胱炎を合併する時にもよい。  
(臨床医のための漢方)
- 帯下：……冷え症で、米のとぎ汁のような帯下が大量に下るといふものに用いてよいことがある。  
(診療医典)
- 腎盂炎：慢性の腎盂炎で、膀胱炎の症状を伴い熱はあまりなく、胃腸の虚弱な人で、食欲がなく、または悪心、下痢などの傾向があるものによい。  
(診療医典)
- 不眠症：胃腸のあまり丈夫でない人の夢精、遺精または尿道の不快感、尿の淋瀝などあって、安眠のできないものに用いる。  
(診療医典)
- 膀胱炎：……貧血性で慢性症となり、……少しでも働きすぎると膀胱炎症状が起こるといふものにもよい。  
(診療医典)
- 男子淋疾：胃腸が弱く貧血していて、神経衰弱の傾向があり、過労すると尿が濁ったり、淋糸がでたり、残尿感のあるものには本方がよい。  
(診療医典)

#### 【文献】

- 『清心蓮子飲の血糖値への影響と肝機能』我妻恵ら、和漢医薬学雑誌13巻322-323、1996
  - 《緒言》耐糖能異常例では、清心蓮子飲により、75g-OGTTにおけるピーク血糖値の有意な下降が認められたことを前回報告した。今回は、耐糖能異常例について、清心蓮子飲の血糖への影響と肝機能との関係を検討した。
  - 《結論》耐糖能障害のある20例に対して清心蓮子飲を投与し、肝機能正常群では75g-OGTTにおけるピーク血糖値が91.7%改善したのに対し、肝機能異常群では50%のみの改善率であった。両群間において $\chi^2$ 検定により、有意に、肝機能正常群に比較し肝機能異常群における血糖値改善率が低い結果が得られ、清心蓮子飲の血糖降下作用が、肝の代謝を介して発現している可能性が示唆された。
- 『清心蓮子飲の血糖降下作用に於ける用量依存性』我妻恵ら、和漢医薬学雑誌14巻362-363、1997
  - 《緒言》著者等は、前々回の本学会で、清心蓮子飲が耐糖能障害を有する患者のGTTでのピーク血糖値を降下させることを報告した。今回は、この血糖降下作用が用量依存性であるか否かを検討した。
  - 《結論》耐糖能異常例で、清心蓮子飲の血糖降下作用にはGTTによるピーク血糖値の変動の検討に於いて用量依存性が認められた。
- 臨床報告『清心蓮子飲による耐糖能の変動』我妻恵ら、日本東洋医学会雑誌、第48巻第1号37-41、1997
  - 《要旨》耐糖能異常例について清心蓮子飲による耐糖能の変動の有意性を検討した。対象は75g-OGTTにて耐糖能異常が認められ、これまでに清心蓮子飲の投与を受けていない男性20例(平均年齢42.0±14.7歳)で、各例についてのルーチンの75g-OGTTと、TJ-111清心蓮子飲2.5g(熱湯100ml溶解液)服用30分後のGTTを行ない、ルーチンのGTTでピークの血糖値を呈した時点での血糖値およびIRI値と、清心蓮子飲服用後のGTTの同時点での値を比較し、変動の有意性を検討した。その結果、ルーチンGTTのピーク血糖値の平均は207.3±57.1mg/dl、清心蓮子飲服用後では、172.

4 ± 22.9mg/dl で、両者に有意差が認められた ( P<0.025)。これに対する IRI値の平均はルーチン GTTでは、49.7±35.5 μ l/ml、清心蓮子飲服用後では、35.6±12.5 μ l/mlで両者に有意差はなかった。従って、清心蓮子飲投与によりインスリン感受性が改善した可能性が考えられる。

○『清心蓮子飲』大塚恭男、漢方製剤の知識、7巻 130-132、1990

「……たくさんの例がございますが、一つご紹介申し上げますと、30歳前半の女性で、非常に弱い方で、何かというところすぐ小便が出にくくなって痛む、ということをお繰り返している、抗生物質をやるとすぐ治るのですが、治ってしばらくするとまたおこってくる。このような状態の方に、何年も抗生物質を続けるわけにゆきません野で、清心蓮子飲を一定期間飲んで頂きますと、すっかりよくなって、繰り返すこともなくなり、尿路感染症も非常によくなったということでございます。

……このような発表はたくさんございますが、もう一つ、最近まで殆ど注目されていなかった、糖尿病の例をご報告したいと思えます。

実は、私が、怪我の功名的に経験したことでございます。私の友人、ある大学の教授でお医者様でございます。体質は弱い方、背が高く、華奢で精神的にも非常に過敏な方、この方がある時、小便がでにくいからといっておいでになりました。お医者様ですから、ご自分で導尿までやっておられる。前立腺肥大には年齢的にまだちょっと若過ぎる時期でして、その時は清心蓮子飲を差上げたのですが、大変具合がよいということで、それから二週間ほど経っておいでになった時、「あの薬は、糖尿の薬か？」と聞かれました。私はそのようなことを知りませんでしたので「尿道炎だということで差上げたのだ」と申しましたところ「実は言わなかったが、私には糖尿病があって、17単位のインシュリンを打っていた」ということでした。ところがあの薬をのんでいたら、低血糖ショックに近い状態になって、インシュリンを減らしていった。インシュリンがどんどん減っていったとおっしゃいます。そこで私はびっくりして、原文を改めて読んでみましましたところ、先程ご紹介しました消渴という言葉がちゃんとオリジナルに記されているわけで、改めて驚いたわけです。

その方は、結局清心蓮子飲を持薬的にずっとお飲みになっていて非常にいい状態ということでございましたが、現在もおそらく飲んでいらっしゃると思えます。長期に連用しても、まず問題はおこりませんし、大変具合がよいことをうかがっております。それに非常に力を得まして、私は色々の症例を経験しております。

まず、糖尿病に二つのタイプがございますが、非常にでっぴりした、お相撲さんタイプ、よくみられるタイプの糖尿病ですが、その場合ですと、まず清心蓮子飲のタイプではなく、このような方は、まず八味地黄丸の方が向くケースが多いと思えます。それとは逆に、華奢な、ひ弱い方で、精神的にもラビールといひますか、神経質な方の糖尿病には、八味地黄丸では具合が悪いので、この清心蓮子飲がむく場合が非常に多いのではないかとと思えます。

それ以後、あちこちで発表しましたので、色々な方が経験なさいまして、ご発表ご追加なさいまして、この清心蓮子飲が、尿路感染症と同時に、糖尿病にも効くのだということが、最近ではほぼ定着した考えのように拝見しております。このように、非常に大切な処方だと思えます。

(日本短波放送 8月30日)